

「地域発 元気づくり支援金」平成26年度実施事業に係るフォローアップ調査集計

回答団体数 【地域振興局別】	佐久	上田	諏訪	上伊那	南信州	木曾	松本	北アルプス	長野	北信	合計
	9	10	8	11	16	10	18	8	17	10	117

○支援金活用事業の効果についておうかがいします

【問1】支援金活用事業の実施によって地域活性化への効果は現在も続いていますか。
次の番号から一つお選びください。

①現在も効果が継続している。

②支援金活用事業を実施した時は効果が見られたが、現在は見られない。

「①」を選んだ方は【問2-1】及び【問2-2】へ、「②」を選んだ方は【問3】へお進みください。

①	108
②	9

【問1】で「①」を選択された方におうかがいします。（【問2-1】から【問2-2】まで）

【問2-1】理由を次の番号から一つお選びください。

①支援金を活用した事業を引き続き実施している。

②支援金を活用した事業とは異なるが、同じ趣旨の事業を実施している。

③市町村又は他団体が類似の事業を実施している。

④その他

①	77
②	21
③	2
④	8

【問2-2】どのような効果がありますか。

また、その効果を持続させるために工夫されている点がありましたらお書きください。

◆どのような効果がありますか

○佐久地域の星空、観光名所等の魅力をアニメという手法を用いて紹介することにより、幅広い世代に親しまれ、市内外に広く周知されつつある。

○2027年のリニア中央新幹線開通を見据えて、リニア始発駅となる東京都品川をはじめとした首都圏での認知度向上が図られた。

○地域の遊休荒廃地の解消や、高齢地主の農地の担い手となっている。

○東京方面でのワイン需要が高まり、地域のワイナリーの栽培者が増加している。

○コミュニティスペースにおいて地域を学ぶ文化講座を継続実施し定着してきた。参加者も広域的に増え、参加者の呼びかけで講座が発展したものもある。他団体との交流の場としても活用が広がっている。

○会員の連帯感の高まりと地域のまとまりが生まれ、新たなグループの結成につながった。

◆工夫されている点

- 地域に題材をとり、子どもや住民に親しみやすい内容を目指している。
- 地元はもちろんだが、首都圏のホテルや飲食店と連携することで、産地の魅力を発信している。産地訪問も積極的に案内している。
- とにかく情報が大事なので、アンテナを高く張って、動きがある地域やキーマンに話を持っていく。
- 地域のイベントや大学などへの出向いてのPR活動、SNSを利用した宣伝活動等を行っている。
- 自分達のできることを無理をしないで楽しく実施している。
- 地元業者や主婦と相談し、地産池消・郷土を意識したメニューに取り組んでいる。
- 市民交流が地域交流の第一歩と認識し、事業で繋がった関係をお互い大切にしている。

【問4】へお進みください。

【問1】で「②」を選択された方におうかがいします。（【問3】のみ）

【問3】理由を次の番号から一つお選びください。

- ①支援金を活用した事業と同じ事業は行っていないため。
- ②事業規模が小さかったため。
- ③事業実施方法に問題があったため。
- ④その他

①	6
②	1
③	1
④	1

○団体の活動状況についておうかがいします

【問4】支援金活用事業を実施してからこれまでの間、団体の活動を継続していますか。

- ①継続している。（一旦休止した後、再開した場合を含む。）
- ②休止・終了した。

①	108
②	9

①を選んだ方は【問5-1】～【問5-5】へ、「②」を選んだ方は【問6-1】及び【問6-2】へお進みください。

【問4】で「①」を選択された方におうかがいします。（【問5-1】から【問5-5】まで）

【問5-1】団体設立からこれまでの活動年数を記入してください。

5年以下	36
10年以下	28
20年以下	20
20年超	21
不明・回答なし	3

【問5-2】設立時及び現在の構成員数を記入してください。

構成員が増加	50
構成員が減少	30
構成員に増減なし	17
不明・回答なし	11

【問5-3】現在の主な事業実施状況を次の番号から一つお選びください

- ①支援金を活用した事業と同様の事業を実施している。
- ②支援金を活用した事業とは異なるが、同じ趣旨の事業を実施している。
- ③支援金活用事業とは全く関係のない別の事業を実施している。

①	72
②	33
③	3

【問5-4】今後、引き続き活動していく上で最も必要だと思われることは何ですか。

次の番号から一つお選びください。

- ①資金の確保
- ②人材の確保
- ③先進事例等の情報収集
- ④他の団体との連携・交流
- ⑤その他

①	53
②	36
③	2
④	10
⑤	7

【問5-5】最近の事業の実施状況や団体の活動状況など自己PRをご自由に記入してください。

- ヒメボタル祭りを毎年実施し、観察場所の整備を行う一方で、白樺高原の自然をより身近に感じていただくため、地域限定の森のガイドを養成している。ガイドは地元立科町住民に協力を依頼し、四季を通して森のガイドを積極的に行う計画である。(佐久地域 蓼科白樺高原観光協会)
- 毎年美味だれの宴や美味だれに関するイベントを開催している。第10回やきとリンピックにも団体として協力し、2日間で約75,000人の来場があり、美味だれ焼き鳥の認知を更に高めることができた。(上田地域 美味だれで委員会)
- 諏訪圏移住相談センターを設置し、総合窓口として休日・夜間の相談に対応している。また移住者の皆さんや民間団体と協働して移住促進事業に取り組んでいる。(諏訪地域 諏訪圏移住交流推進事業連絡会)
- 米俵マラソンを通じて藁の有効活用が出来るようになり、農家さんの収入につながってきた。わら細工職人も徐々に増え、米俵以外のわら細工の販売も順調に増えている。飯島町民の米俵マラソンへの協力と参加も増え、飯島町を代表する行事となっている。(上伊那地域 飯島町米俵マラソン実行委員会)
- 地域で行われる様々なお祭りや事業に歌や踊りとして参加している。現在も毎月練習を行い、周知と存続に努めている。今後は過去に存在した応援歌の復活を計画している。(南信州地域 「駄科の歌と踊り」をつくる会)
- 従来、冬期間の木曽路はイベント等が少なかったが、当事業も昨年度で第10回を数え、マスコミ等で取り上げられる頻度も高まり、年々来場者も増加するなど、冬の木曽路の一大イベントに成長している。(木曾地域 木曽路氷雪の灯祭り実行委員会)
- 設立時から「住んでいるよう町を楽しんでもらうご案内」をモットーに活動を続けている。最近は他の民間団体と連携し、インバウンド対策に取り組んでいる。(松本地域 松本城町市民コンシェルジュ)
- 関東・関西からの学習旅行を積極的に受入れている。(北アルプス地域 安曇野松川村農家民宿連絡協議会)
- 「ワクワク・ホカホカの里山パラダイスを皆さんと一緒に創ります！」をミッションに、遊休農地の再生・活用など様々な事業を行っている。里山をまるごと資源と捉えて、お客さんもボランティアもスタッフも楽しめることを企画実施しながら、課題の解決にチャレンジしている。(長野地域 特定非営利法人飯綱高原よっこらしょ)
- 村内外のイベントへの出店で、玄米粉を使用したワッフル「米っふる」の美味しさが認知されるようになり、リピーターや出店依頼も増えてきた。また中町展示館(木島平村)で飲食店業の許可を取得し、不定期ではあるがヘルシーランチを提供(蔵かふえ)するなど、活動の幅を広げている。(北信地域 なちゅらるスイーツ)

【問4】で「②」を選択された方におうかがいします。(【問6-1】から【問6-2】まで)

【問6-1】支援金活用事業を実施した後、休止又は終了までの年数を記入してください。

1年	6
2年	2
3年	1
不明・回答なし	0

【問6-2】活動を休止又は終了した理由を次の番号から一つお選びください。

- ①所期の目的を達成
- ②資金不足
- ③人材不足
- ④その他(具体的に下欄にお書きください。)

①	5
②	0
③	0
④	4

○他の団体に一部事業を引き継いだ。